

津軽海峡沿岸の定置網に出現する幼体 スルメイカについて (抄録*)

涌 坪 敏 明

(青森県水産試験場)

日本周辺に分布するスルメイカには、その発生時期により冬生まれ群・秋生まれ群・夏生まれ群の3系群があるとされているが、このうち資源的には少ないが比較的ローカルな群とされている夏生まれ群の存在と再生産の可能性について研究を進めているなかで、春季に青森県津軽海峡の沿岸の定置網に出現する幼体スルメイカについて調査する機会を得た。ここではまず、幼体スルメイカの出現状況及び成長と津軽海峡の海況特性との関連について報告する。結果及び考察は以下のとおり要約される。

1984年11月20日から1985年6月19日までのうち延48日間に青森県下北半島の津軽海峡側の定置網で887個体の幼体スルメイカを採集し(図1)、その出現状況・成長について検討した。

- 1) 3~5月にかけて出現が多く、従来は、沿岸各地の定置網に4月なかば以降出現することがよく知られていたが、それ以前にも出現していることが明らかとなった。
- 2) 11~12月の群と2月下旬以降出現する群では成長が異なり、前者では外套長80~140mm、体重15~85g、後者では外套長20~150mm、体重5g未満~105gであった。

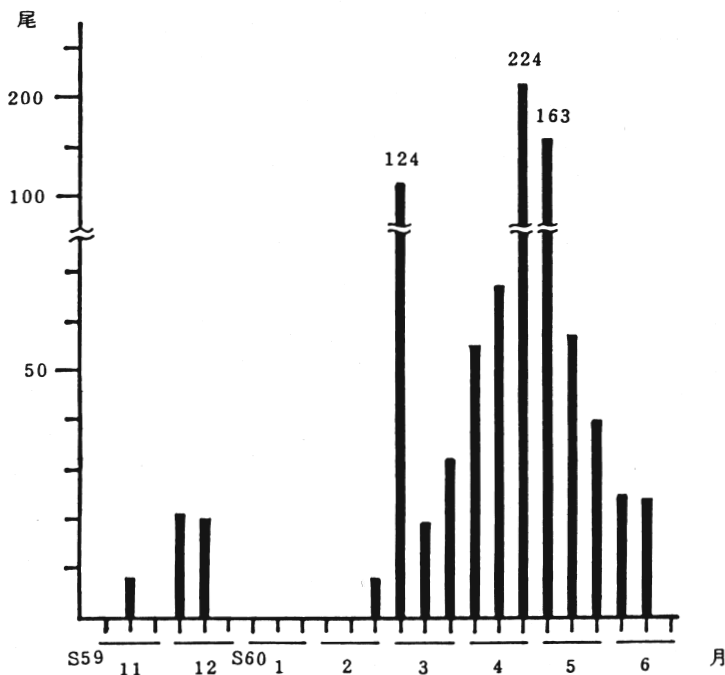


図1 幼体スルメイカの旬別採集個体数

- 3) 2月下旬～4月中旬の幼体スルメイカの外套長組成の推移をみると成長が停滞しているようにみられるが、これは水温の低極期にあたるためと考えられる。
- 4) 新谷ら(1972)の成長式をあてはめて発生時期について若干検討した(図2)が、新谷らの成長式とは少し異なり、成長状況から冬季よりも以前に発生している可能性があると考えられた。

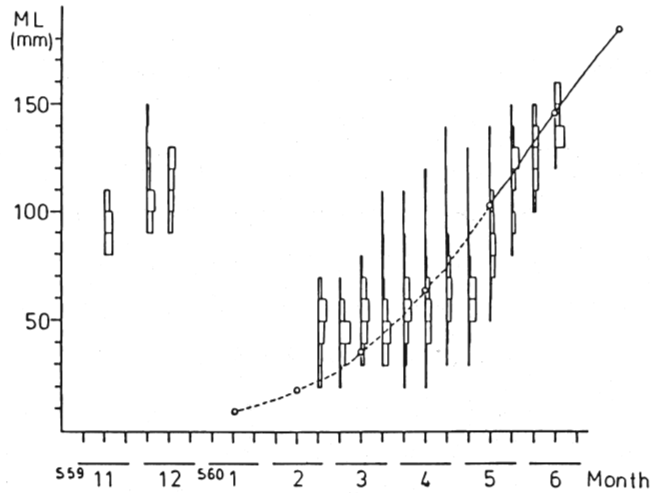


図2 幼体スルメイカの外套長と新谷ら(1972)の成長式

* 詳細については青森県水産試験場(1986)イカ釣漁場開発調査資料XI, p.1～8を参照のこと。